

vol. 2292

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売 価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 第25回高教組ボウリング大会
- 日教組第72次教育研究集会
- 第44回九協「2.11 平和教育研究集会」

第25回 高教組ボウリング大会

とき 12月4日(日) ところ OBSボウル

高教組ボウリング大会を開催し、未組織者を含む24人が参加しました。同日の午前中に開催した高教組フェスタからの参加者もいました。和やかな雰囲気の中で、とても楽しい時間を過ごすことができました。

結果は以下のとおりです。

● 団体の部

優勝 情科Bowlers

植田茂樹さん、形岡深志さん、上本雄治さん (情報科学分会)

準優勝 大分東ER

上野英俊さん、阿部智恵美さん (大分東分会)、阿部一鑑さん (安心院分会)

第三位 佐伯豊南B

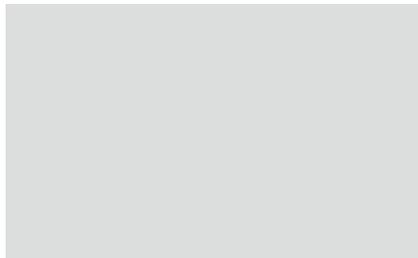
石田義徳さん、富田明寿さん、的石龍汰さん (佐伯豊南分会)

● 個人の部

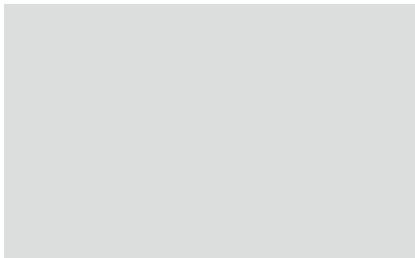
優勝 植田茂樹さん (情報科学分会)

準優勝 上野英俊さん (大分東分会)

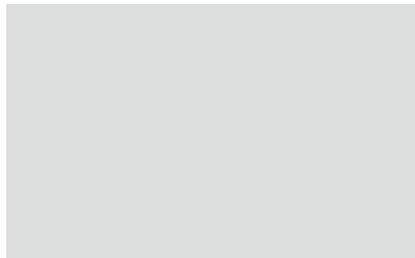
第三位 石田義徳さん (佐伯豊南分会)



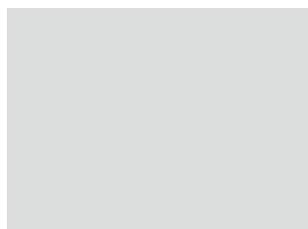
情科Bowlers



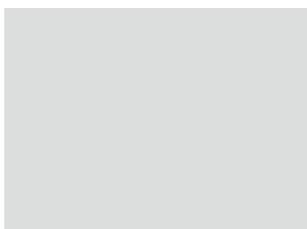
大分東ER



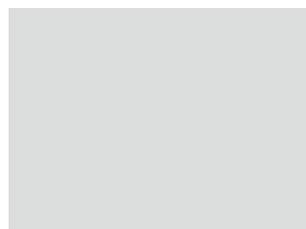
佐伯豊南B



植田茂樹さん



上野英俊さん



石田義徳さん

日教組第72次教育研究集会

とき 1月27日(金)～29日(日)

日教組第72次教育研究集会が開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度も残念ながらWeb開催となりました。

27日は全体会が開催され、早稲田大学の長谷部恭男さんが、「大日本帝国憲法から日本国憲法へ～憲法の過去と将来～」と題して記念講演を行いました。

28、29日には分科会が開催され、大分高教組からは4人がリポーターとして参加し、また、佐藤新太郎さん(大分工業分会)が第10分科会「技術・職業教育」、小野陽子さん(別府鶴見丘分会)が第19分科会「メディア・リテラシー教育と文化活動」の司会者を務めました。

Web開催であったものの、熱心な議論が行われ、充実した集会となりました。また、全国教研報告集「日本の教育第72集」に、貫正裕さんと高津仁美さんのレポートが、各分科会で1本だけ要約が掲載される「このレポートに学ぶ」に選ばれました。

来年は、対面開催ができることを望みます。

【大分高教組 リポーター】

分科会名	分会名	リポーター名	レポートタイトル
日本語教育	別府翔青	高橋 貴子	「現代の国語」における、相手に伝える活動について
技術・職業教育	大分工業	貫 正裕	脱炭素を図りながら、再生可能エネルギーで通学路の夜道を照らす取り組み
両性の自立と平等をめざす教育	大分支援	高津 仁美	特別支援学校養護教諭による性の学習の実践 — まずは一歩踏み出してみる —
総合学習と防災・減災教育	爽風館定時制	糸永 伸哉	あなたもイベントプランナー

【参加者からの還流報告】

○22本が小学校、4本が中学校、4本が高校からのレポートだった。小学校入学時にひらがなが読めない児童、日本語の困りがある外国籍の児童、読み書きが苦手で支援学級で学ぶ児童たち、その児童たちに寄り添った学習・支援を工夫したことにより、楽しく学校に通えるようになったというレポートが全部で4本あった。言語で伝え合う力を付けることが、国語・日本語教師に求められているのだと、改めて実感した。

共同研究者の大原さんから鳥取高教組のレポートと私のレポートが絶賛(?)された。鳥取のレポートは「自分が魅力を感じる歌詞」をスピーチする活動で、私のは「自分の好きなもの」を相手に伝えるように音読する活動であったが、大原さんが言うには、「教師自身が授業を楽しんでいる」のだそうだ。確かに発声練習をしたことで、生徒の声が変化しとても楽しかった。質問もたくさんいただき、参加者がすぐにでも実践したい内容だったのだと思う。

参加しての一番の感想は、熱心な先生ほどたくさん字を書かせるということだ。日本人に猫背が多い一因かと思う。自信なさげな見た目、身体的な痛み、精神疾患などへつながるため、猫背はいいことがない。小中学校の先生に、いい姿勢で書くことや肩回りのストレッチをさせてほしいとお願いをした。(別府翔青分会 高橋 貴子)

○第16分科会「両性の自立と平等をめざす教育」では、労働と家族、意識・慣習の見直し、性の教育の3つの柱に分けて順番に発表・討議がありました。性別で分けられない名簿の実施はまだ全国で8割にとどまり「男女別じゃない名簿なんてあるんですか?」という他県の参加者もいたほど、ジェンダー平等をめざしてやるべきことは、まだ多くあると感じました。私は「特別支援学校養護教諭の性の学習の実践— まずは一歩踏み出してみる—」のレポートを提案しました。さまざまな制限やもどかしさと折り合いをつけながら、全国の仲間たちも今できることを頑張っていると交流でき、元気をもらいました。「この分科会の教育は、子どもたちに『社会は変えることができる』と伝えられる」という発言を聞き、改めて、日本の性の教育が世界水準に追いつくように、日々の実践・情報発信を諦めずにとりくんでいこうと思いました。

(大分支援分会 高津 仁美)

○予定調和を目指さず、教師の教えたいことを押しつけない。児童生徒の小さな眩みや表情を逃さず捉え、生徒や地域のリアルな現実からスタートし、ジェネレーターとしての教師自身のものも含むワクワク感や、その時々偶然の展開も大切に。全国の24本のレポート発表を聞き、討論を深める中で、そんな総合学習の魅力を確認できました。ほとんどが小学校での実践発表の中で、私の、生徒たちと、外部も意識したイベント作りを進めていく事例発表も、高校生ならではのダイナミックな展開や、「境界人」としての私の学校内外を有機的につなぐ働きを称賛していただきました。一方で、健康被害が隠し切れなくなっているワクチンの問題と同様に、こうした素晴らしい教育活動を阻害する可能性の大きいマスクや黙食、ソーシャルディスタンスなどの過剰に思える感染対策を無批判に推し進めるのではなく、組合として危機感を持って、科学的・批判的に検証し、その縮小・撤廃の声をあげてほしいと強く思いました。

(爽風館定時制分会 糸永 伸哉)

○今年も司会者として参加。本分会からは新進気鋭の若手がリポーターとして参加。通学路の夜道を照らす取り組みが全国大会での最優秀賞や特許取得という外部評価を得たことを発表した。着実に輪は広がっている。

教師や生徒の計画の、予想していない広がりや成果に、私たちの目指す授業『課題研究』の可能性がある。しかし、中学校の技術科の教員はこの授業『課題研究』を知らない人が多かった。昨今は工業高校が不人気であるという。ならば、全ての生徒と教員を成長させる授業『課題研究』の可能性をもっとPRしていくべきと考える。経済的に厳しく大学進学をあきらめた(あきらめさせられた)生徒も工業高校には存在する。家庭的に“しんどい”子もいる。そんな子どもと向き合い、一人前にさせて社会に飛び立たせることが工業高校の使命であり社会貢献であり、魅力である。

(大分工業分会 佐藤新太郎)

○1月28日(土)29日(日)の2日間、第19分科会「メディア・リテラシー教育と文化活動」に参加し、司会者の一員として運営に携わりました。

分科会A「情報教育、学校図書館教育」には14本の、分科会B「学校・地域の文化活動」には5本の提案レポートがあり、ZOOMであるのがもどかしいくらい活発な討議が行われました。リポーターの方々が報告する教育実践を通して、子どもたちを育てる熱意が伝わり、私たちが元気づけられました。

学校司書部では全国教研の視聴を冬の学習会と位置づけ、6人が参加しました。本部役員の皆様には、ZOOM参加のセッティング等で大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

(別府鶴見丘分会 小野 陽子)

第44回 九協「2.11 平和教育研究集会」

とき 2月11日(土)

九協平和教育研究集会が、Webで開催されました。

日教組九協では、反戦平和のとりくみを進めるため、毎年建国記念の日(2月11日)に、次の目的を掲げ、この集会を開催しています。

憲法・「子どもの権利条約」の理念の実現をめざして、社会的合意形成を図りつつ教育改革運動をすすめるとともに、平和・人権・環境と民主主義を守る運動を積極的に展開していく。

- (1) 平和教育の基本理念を明らかにし、長期的な教育計画に基づき、積極的な実践にとりくむ方途を追求する。
- (2) 「建国記念の日」が紀元節の復活、国民の思想統制、「軍事大国化」路線の推進を企図するものであることを明確にするとともに、「国旗・国歌」法制定による「日の丸・君が代」のさらなる強制に反対し、平和・人権・環境と民主主義を守る運動と教育実践を追求する。
- (3) 憲法改悪に反対するとともに、在日米軍基地問題の早期解決をめざし、反原発・反公害・核兵器廃絶運動と日本国憲法の平和主義の実現を追求する。
- (4) 戦争の実相や加害者としての責任を、特にアジアの視点から明らかにするとともに、「自由主義史観」グループに代表されるナショナリズムの横行を許さない、史実に基づく近現代の歴史教科書の充実をはじめとする教育実践の深化と地域運動の構築を追求する。

全体会では、開催県（宮崎県）あいさつの後、宮崎地区退職教職員協議会（戦争を語り継ぐ会）が作成した「のり子八歳」のDVDを視聴しました。これは、宮崎開拓団として家族5人で中国「満州」に渡った八歳の「のり子」の戦争体験を、朗読劇にしたものです。戦争の恐ろしさ、悲惨さが伝わってきました。

その後、4つの分散会が行われました。

分散会一覧

【第1分散会】

単組名	テーマ
大分県	平和の思いをつなぐ ～平和フィールドワークを日常の実践へ～
佐賀県	絵本で反戦・平和の種をまく

【第2分散会】

単組名	テーマ
長崎県	川棚小学校平和集会における実践
熊本高	ヒロシマナガサキピースメッセンジャー 平和の種まきプロジェクト報告 ～熊本における高校生平和活動の深化～

【第3分散会】

単組名	テーマ
熊本県教協	「算数・数学で世界の平和課題と出会う」 ～オキナワの話、そして、私の生活がアフリカと地続きになる～
鹿児島	「生徒たちに平和の尊さを伝えるために」

【第4分散会】

単組名	テーマ
鹿児島県	とりくみを続け、広げること
福岡県教協	筑紫地区の平和教育の灯を消すものか!!

大分高教組からは、4人の組合員が参加しました。

ロシアによるウクライナ侵攻から1年が過ぎました。今こそ、平和について考え、次世代へしっかりと継承していかなければなりません。

23年度は大分県が開催県です。多くの方の参加をお待ちしています。

★参加者感想★

○熊本県教協の和田先生は、算数の授業で割合の学習をする時に世界の子ども兵士の割合を扱うなど、日頃の授業の中に平和学習を組み込まれていました。鹿児島高教組の田中先生は他の分会員と協力して平和学習に関するアンケートを取り、生徒の現状把握をされていました。最近の生徒は動画ばかり見てテレビを見ないので、学校で平和について教えていくことがますます大切になっているという指摘や、日本の加害の立場も考えていくことが必要だという指摘が印象的でした。
(大分上野丘分会 三浦 宏昭)

○私は第2分散会に参加しました。長崎の川棚町で、戦時中に特攻兵器「震洋（敵艦に体当たりする小型ボート）」が作られ、多くの若者が命を落としたという事実を初めて知りました。熊本では、高校生が、ピースメッセンジャーとして「一万人署名活動」だけではなく、小学校で平和学習の講師を務めたりフィールドワークを通して知識を深めたりと、さまざまな活動に熱意を持ってとりくんでいる報告に、とても感銘を受けました。私達が平和のために運動を続けていくことはもちろんですが、このような高校生達を1人でも多く育てていけるように、今後も学習を深めていこうと改めて強く思いました。
(書記次長 仁木 史絵)